

平成30年3月霧島山(新燃岳)噴火に伴う対応

平成30年3月12日
砂防部

- 霧島山(新燃岳)で平成30年3月1日11時頃噴火が発生。3月6日以降、11日15時まで爆発的噴火が42回発生。また、6日以降、火口内で溶岩の盛り上がりを確認され、9日には北西側への流出が確認された。(噴火警戒レベルは3が継続)
 - 降灰状況及び火口付近の状況の把握のため、九州地方整備局がヘリ調査(3月1日、6日、9日、10日)や地上からの現地調査(3月2日、3日、6日、7日)を実施。
 - 10日のヘリ調査では、山麓で明瞭な降灰の堆積は認められなかった。また、火口縁から乗り越えた溶岩の幅は約200m、末端までの長さは10m程度で、その他の箇所からの乗り越えは認められなかった。今後も火山の状況を注視しながら観測を継続する予定。
- [なお、新燃岳周辺の雨量観測所(矢岳観測所)で、3月5日に最大時間雨量約40mm、累積雨量約100mmの降水を観測したほか、3月8日にも累積雨量50mm超の降水を観測したが、土石流の発生は認められていない。]

